（別記様式3-2）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

研修参加者
所属: 理工学研究科 修士1年
氏　　名: 前田樹里

授業科目名	国際バイテク･リーダー育成
研修先（国･地域） 滞在地	タイ（バンコク） モンックト王工科大学トンブリ校
研修期間	平成 29 年 2 月 15 日 ～ 平成 29 年 2 月 26 日

〔研修を通じて得た成果〕

「コミュニケーション能力を身につけた」

担当教員が現地の学生との意思疎通に何度か苦労していた場面があった。そのとき、きれいではない英語を話す相手とコミュニケーションを取るときには語学力だけでは足りないということを知った。私は語学力が乏しかったが、理解する力と伝える力を学んだのでタイの学生と交流し多くの知識の共有ができたと考えている。

「異文化交流を行う上で大事なことを学んだ」

買い物ではタイ語を使った値段交渉に積極的に挑戦していた。しかし、まけてくれて当たり前、お店の人よりもお客である自分の方が有意な立ち場だという意識が気付かないうちに芽生えていた。異なる文化になじもうとする気持ちが先走り、相手は国籍は違えど同じひとであるという意識が薄くなっていた。そのことに気付いてから、買い物をした後お店の人に心からの「ありがとう」を伝えるよう心掛けた。そうするとお店の人も笑顔で答えてくれ、とても気持ちよく買い物することができるようになった。

「経済における国際的な感覚を身につけた」

5 社の企業訪問を通して、日本の企業との相違点、輸出入に関する問題点等の知識を得ることができた。また、海外で働く日本人の方ともお話しすることができ、海外で働くということを少しだけ身近に感じるようになった。今回の研修によって国際経済に対する興味が沸いた。

〔研修後の抱負〕

私は、研修で得たグローバルな視点を就職したのちに大いに役立てたいと考えている。しかし今ある知識や語学力ではまだまだ足りない。研修で国際経済について関心を持つことができたので、これを機に今後は自分で情報収集をしてさらに知識を蓄え、英語の勉強も並行して行おうと思う。知識を増やすことに関して、具体的には企業研究の際に国際展開に意識した研究をすること、英語の勉強については、研修で仲良くなった現地の学生との連絡を頻繁に取り英語にさらに慣れていきたいと考えている。

（別記様式3-2）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

研修参加者
所属:（学部（研究科）・学年）
理工学研究科・修士１年
氏　　名: 前田　祐加

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
研修先（国・地域） 滞在地	タイ・バンコク　モンクット王工科大学トンブリ校
研修期間	2017 年 02 月 15 日（水）　～　2017 年 02 月 26 日（日）

〔研修を通じて得た成果〕

今回の研修では、タイの文化に直接触れることで、新たに多くの学びを得た。私自身が特に印象に残っていることとして「文化の違いに対する理解」について以下に報告する。

タイを訪れる前に事前講義を行っており、タイの文化や生活環境についてはある程度理解した上で研修に参加したつもりであった。しかし、タイで生活することで、知っている知識と実際の体験との差にギャップを感じた。それ以上に知らない事実を目の当たりにした。日本で生活している私としては驚くことも多く、私の中の常識は、日本で生活している中で構築されたものであることを痛感した。タイで生活している人も、きっと私たちの行動を見て、驚くことがあったかもしれない。このような価値観の差は、お互いが交流することで驚くだけでなく、理解しあうことができるのではないか。さらには、環境が違えば、常識・文化も違うことを理解するとともに、他の国の文化を経験することは面白い！より知りたい！と感じた。それは、書面や座学だけでは感じることのできない、生の情報であるからだと思う。

では、私は、生の情報を誰かに伝えることができただろうか。私自身は、上手く伝えることができなかったように感じる。私の語学力の低さが原因であろう。英語を話せないことに対するもどかしさを痛感した。

今回の研修は刺激的なものであり、他の国に対する興味を持つとともに、英語の必要性を強く感じた。

〔研修後の抱負〕

今回研修の一つとして、タイの企業や大学・研究室を訪問させて頂いた。自分が所属している研究室との比較により、今まで見えていなかった自分の欠けている部分を認識することができた。また、今後は就職活動も控えているため、日本の企業もしっかりと理解していきたい。

さらに、タイでの経験を他の学生に伝えることで、より多くの学生が他の国に興味を持ち、海外に行く機会を得ることができることを望む。

（別記様式3-2）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

研修参加者
所属：（学部（研究科）・学年）農学研究科・1 年
氏　　名:　　村上　愛

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
研修先（国・地域） 滞在地	タイ・バンコク　モンクット王工科大学トンブリ校
研修期間	2017 年 2 月 15 日 ～ 2017 年 2 月 26 日

〔研修を通じて得た成果〕

今回の研修を通して多くのことを学ぶことが出来た。一点目はタイでの人々との交流である。現地の授業や先生、学生との交流では英語を使った。普段なかなか使用しない英語を使うコミュニケーションは戸惑うことが多かった。しかし、分からながらにも伝えようとすることが大切だとわかった。身振り手振りなどと合わせて相手とコミュニケーションがとれたとき、達成感がすごくあった。二点目は食文化に触れたことである。大学では食品について研究しており、以前より海外の食文化についてとても興味があった。そのため、異国の食文化について学べたのはとても貴重な経験となった。タイの食文化は日本と違う点が多く、何をとっても驚くことが多かった。お米や香辛料の使い方など食材の違いを始めとして、大皿を取り分けて食べる食べ方や水に注意することなど日本に居ただけでは考えもしなかったことが多く勉強になった。また、味の素や CPF など企業訪問を通して現地での働き方や世界との関わり方を学べた。三点目は研修メンバーとの関わり方である。私は大学院生としての参加であったため、最上級生として後輩を引っ張る立場にあった。PBL に向けての事前研修の段階から学年の違うメンバーの中で協力しながら活動できるかについて考えて行動することが多かった。現地での活動でも先生と下級生の間にたって動くのは簡単なことではなかった。修士生の友人と活動後も意見を交換する場を設け、研修を通してどうすればより充実したものになるかを何度も話し合った。その結果、上級生としてメリハリのある行動の仕方を学ぶことができた。多くの学びを得られた素晴らしい研修になった。

〔研修後の抱負〕

研修を通して様々な経験をすることができた。タイの文化や人々との交流などたくさんのことを見て、体験することができた。これらは日本に居ただけでは分からなかったことだろう。どんなことでも挑戦し、経験することの大切さを学んだ。今後は大学での研究生活や就職活動をすることになるが、今回の研修で得たことを活かしていきたいと思う。何かを大きいことに挑戦するとかではなく、小さなことから一つずつ挑戦していきたい。まずは自分の研究を発展させるべく、今後も努力していきたいと思う。